

インターネットに関する文献の紹介

鈴木隆雄*

1993年11月8日

1 はじめに

従来、コンピュータネットワークに関する文献と言えば、例えば Andrew S. Tanenbaum の “*Computer Networks*” や Douglas E. Comer の “*Internetworking with TCP/IP*” 等のような技術的或いは専門的著作が殆どであり、一般的な読者を対象とした読むのに平易な解説書は決して多くはなかった。しかし、近年のコンピュータネットワークの急速な普及により、最近では研究用の学術書以外に初心者用の入門書や手引書の類も非常に数多く出版されるようになってきている。また、この種の文献資料としては、いわゆる「書籍」の他に、ネットワーク上で文書ファイルやソフトウェアとして入手可能なものも無数と言ってよい程存在する。本稿では、これらの資料も含めて現在読むことの出来るインターネット関連の文献の中からごく一部を紹介する。

1.1 図書、雑誌論文について

本稿執筆時点で未出版の単行書、および既出版でありながら入手出来なかった図書の数は2ダース以上にのぼる。これらの資料については将来機会が与えられたときに触れることにしたい。又、雑誌論文については、筆者の目の通せなかった文献即ち殆ど全ての海外および国内の重要な論文記事の参照を省略した。今回紹介する市販の書籍についてはその殆ど全てに ISBN を付記している。従って、ISBN に関する注記のない文献は、雑誌記事と各大学の計算機センター発行の手引、広報、論文集を除き全てオンラインで入手した資料である。

* すずき たかお お茶の水女子大学附属図書館
〒112 東京都文京区大塚 2-1-1

1.2 オンライン入手可能な資料について

本稿ではネットワークを経由してオンラインで配布、提供される文献資料等の所在場所の特定を敢えて一切行なわなかった。Archie や Gopher 等のツールを駆使して所在を確認の上近隣サイトから入手されることが望ましい。又、これらのファイルの多くは PostScript ファイルか TeX の dvi ファイルでも提供されているので、紙に印刷する場合はそれらを選択するのがよい。(但しこの近年、手引等を印刷用にフォーマットされたファイルで提供するよりは、Gopher や World-Wide Web 等を使ってオンラインで読めるようにする傾向が見られる)

尚、所在場所を含んだファイルの指定については、World-Wide Web 等で使われている URL による記述が一般的となりつつあるが、図書館関連では USMARC による記述(所在場所としては 852 フィールドに準じたフィールドの拡張が提案されている)という実験もある。次に挙げるオンライン配布文書は、現在の USMARC と AACR2 rev. との下でこういった電子ファイルの記述がどこまで可能であるかを調査したものである。

(1) Dillon, Martin et al. *Assessing Information on the Internet: Toward Providing Library Services for Computer-Mediated Communication*. OCLC Online Computer Library Center, 1993.

オンライン情報の引用や記述方法については、最近改訂のあった “*The Chicago Manual of Style*” でも僅かではあるが取り上げられていることもあり、今後図書館関係者の間でも大きな話題となっていくであろう。

2 書誌目録, 読書案内

最初にコンピュータネットワークに関する資料の二次情報を挙げる。

(2) Stanton, Deidre E. (Comp.) *Using Networked Information Resources: A Bibliography*. 1992.

書籍, 雑誌記事からオンライン配布文書, ソフトウェアに亙ってコンピュータネットワークについての資料がよく網羅されている。特にオンライン配布文書, ソフトウェアについては検索用のキーワードまで与えられている。文献毎のコメントや解説はない。

(3) Spurgeon, Charles. *Network Reading List: TCP/IP, UNIX, and Ethernet*. Version 3.5. 1992.

ネットワーク管理者向けの技術資料の詳細な解題。第4部ではメーリングリスト, INTEROP等の国際会議, 逐次刊行物の資料請求の方法まで解説しているので一般の利用者にとっても有用である。

(4) Parker, Elliott S. (Comp.) *Getting to Start: Selected readings in computer communication*. 1992.

“Computer Networking Bibliography” (1991)の改題。Stantonのものに比べれば分量は少ないが重要な資料はよく押さえられている。多くの文献にはコメントが添えられている。

(5) Bowers, K. et al. *FYI on Where to Start: A Bibliography of Internetworking Information*. 1990. (RFC1175)(FYI3)

主題と資料の形態との分類を同時に用いて作られた独特の構成による文献案内。各々の解説も非常に的確である。

(6) Quarterman, John S. *Recent Internet Books*. 1993. (RFC1432)

インターネットに関する書籍を取り上げて各々丁寧に解説している。書誌記述は比較的詳細で、書評の参照も出来るようになっている。

(7) Hoffman, E.; Jackson, L. *FYI on Introducing the Internet: A Short Bibliography of Introductory Internetworking Readings for the Network Novice*. 1993. (RFC1463)(FYI19)

副題の示すごとく短く簡潔に初心者向けの文献が少数列挙されている。各々の文献へのコメント

はない。徒らに長大な目録よりは却って読み易く便利かもしれない。

(8) Maas, Robert Elton. *MaasInfo.DocIndex: Bibliography of online tutorial and other documents useful for learning how to use many of the available Internet (and BITNET) resources*. 1993.

オンラインで入手可能な初心者向けの文献資料のリスト。入手方法が各々非常に詳細に説明されている。各ファイルの大きさもKB単位で書かれているので便利である。

(9) Maas, Robert Elton. *MaasInfo.TopIndex: Toplevel index to all major Internet indexes*. 1993.

諸々のネットワークで提供されている, メーリングリスト, ノード, Anonymous FTP サイト, 書誌目録, 等のディレクトリやリスト等総数 80 件以上のリスト。

(10) 砂原秀樹. インターネット時代の楽しみ方: これからネットワークを学びはじめる人達のために. コンピュータソフトウェア, Vol.10, No.4, p.66-69 (1993)

この分野の中心的研究者の一人による, 市販の書籍 11 冊の紹介。読者の動機によって文献を 5 種類に分類し各々明快な解説を加えている。

3 語彙集, 縮約語集

(11) Jacobsen, O.J.; Lynch, D.C. *A Glossary of Networking Terms*. 1991. (RFC1208)

INTEROP '90 で配布されたネットワーク用語集を基本に作られている。頭字語を中心に簡潔な解説が加えられている。ここでは JUNET が Japan UNIX Network となっている。

(12) Malkin, G.; Parker, T. LaQuey. *Internet Users' Glossary*. 1993. (RFC1392)(FYI18)

相互参照, 典拠なども入った, よく考えられて設計された用語集。技術用語の他にニュースやメールの中で使われる独特のフレーズについての解説もある。

(13) Kind, Irving. *Babel: A Listing of Computer Oriented Abbreviations and Acronyms*. Version 93B. 1993.

頭字語や縮約語など総数 200 以上のリスト。年 3 回更新されている。

(14) Raymond, Eric S.; Steele, Guy (Comp.) *The New Hacker's Dictionary*. 2nd edition. Cambridge, MA, MIT Press, 1993. (ISBN 0-26268-079-3)

この本の源泉は MIT やスタンフォード大学のハッカーの間で用いられていたスラングを集めた jargon ファイルだったが、20 年近い歳月を経て分量はオリジナルの 10 倍以上に膨れ上がっている。電子テキストファイルとしてもオンラインで入手可能で、中には TeX の dvi ファイルになっている版もある。書籍としては “*The Hacker's dictionary*” (1983) の第 3 版に相当する。特にネットワークに関連する語が多い訳ではないが、読み物として大変面白い。

4 インターネット全般

以下に挙げたものの他に、有償で購読できる “*ConneXions: The Interoperability Report*”, “*Internet Society News*”, “*Matrix News*” 等のニュースレターがある。

(15) Krol, E. *The Hitchhikers Guide to the Internet*. 1989. (RFC1118)

Douglas Adams の SF “*The Hitchhiker's Guide to the Galaxy*” に題名を擬えたインターネットへの入門書で、文章も Adams の作品のそれに模した部分が随所に見られる。全くの初心者向けの手引ではなく、ある程度 LAN についての経験をもつ人がインターネットへの接続を行う場合に役立つ優れた手引書である。

(16) Quarterman, John S. *The Matrix: Computer Networks and Conferencing Systems Worldwide*. Bedford, MA, Digital Press, 1990. (ISBN 1-135-65607-9)

著者によれば Matrix とはインターネット及びインターネット以外の全てのネットワークを含んだ、世界中のあらゆるネットワークの総体である。従って、この本では BITNET や UUCP 接続によるネットワークについての詳細な記述も含まれている。発表後 4 年を経て内容的に現状と合わない部分も生じつつあるが、その網羅性と包括性とに

よって古典的な資料とされている。

(17) Lynch, Daniel C.; Rose, Marshall T. (Eds.) *Internet System Handbook*. Reading, MA, Addison-Wesley, 1993. (ISBN 0-201-56741-5)

インターネットの歴史はもとより、管理機関、関係団体、基準や規定の成立手順、技術面での発展、運用の方針、将来像等について詳述した大著である。特に通信プロトコルとインターネット接続についての技術的な解説が大きな部分を占めている。

(18) Krol, E.; Hoffman. *FYI on “What is the Internet?”* 1993. (RFC1462)(FYI20)

文字通りインターネットとは何であるか、についての説明書である。米国内ですら多義性をもって使用されているこの言葉に、Krol は自著 “*The Whole Internet User's Guide and Catalog*” の第 2 章からの更新を含む引用で明快に答えている。

(19) Malkin, G.S.; Marine, A.N. *FYI on Questions and Answers: Answers to Commonly asked “New Internet User” Questions*. 1992. (RFC1325)(FYI4)

例えば、RFC とは何を意味するか、等のような全くの初心者の疑問や質問とそれに対する回答を集めた文書。RFC1206 を改訂したもので、ISOC や Archie についても対応された。

(20) Marine, A. et al. *Internet: Getting Started*. Menlo Park, CA, SRI International NISC, 1992. (ISBN なし)

組織や個人でインターネットに接続をする場合の具体的な情報を記している。本書に含まれた世界中のインターネット接続業者のリストは SRI の NISC からネットワーク経由で入手可能である。SRI は最近 Prentice-Hall から本書の改訂版を出したと聞く。

(21) 北川正路; 中嶋聞多. 米国における学術研究ネットワークの成長. 情報の科学と技術, Vol.42, No.2, p.128-134 (1992)

米国インターネットの歴史と当時の状況が要領よくまとめられている。

(22) 吉村伸. インターネットの将来展望とコマース・サービス. インターフェース, Vol.19, No.2, p.172-180 (1993)

インターネットの商用サービスを含めた将来展望と現在の状況を国内を中心に述べている。DNS

やメール配送のメカニズムについても触れている。

(23) Leiner, B.; Todd, L. (Eds.) *Abstracts of INET'93: International Networking Conference, San Francisco, Cal., USA, 17-20 Aug. 1993.* 1993.

1993 年度の INET 総会に世界各国から寄せられた発表論文総数 80 以上の要約集。尚、各論文は PostScript ファイルとして入手可能である。これらを精読することで技術的動向を含めたインターネットの最新の状況のある程度把握することが出来る。

4.1 日本のインターネット事情

(24) 学内 LAN とインターネットワーキングの展開: 研究会論文集. 東京大学大型計算機センター, 1991.

1991 年 11 月に行なわれた研究会の論文集。WIDE, TISN, JAIN 及び東北大学, 東京大学, 大阪大学の各 LAN についての当時の状況が述べられている。

(25) 日本におけるアカデミック・ネットワークの相互接続の諸問題シンポジウム論文集. 東京大学大型計算機センター, 1992.

1992 年 3 月に行なわれた, LAN 間相互接続研究のためのネットワークである JAIN と, 主要大学の学内 LAN についての当時の状況に関するシンポジウムの論文集。

(26) 地域ネットワークの課題: 研究会論文集. 東京大学大型計算機センター, 1992.

1992 年 7 月に行なわれた研究会の論文集。TRAIN や KARRN などの地域ネットワークについての当時の状況が述べられている。

(27) *IP Meeting '92.* JPEG/IP, 1992.

1992 年 11 月に慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスで行われた表題会議の予稿集。WIDE, JAIN, JOIN 等の IP ネットワークの現状の他, JNIC (現在の JPNIC) や JCRN 等の組織, Archie や WAIS 等のサービス, 技術的な試みや運用管理について述べられている。

(28) インターネットワーク入門: IP インターネットと地域ネットワークの現状と将来. インターフェイス, Vol.19, No.1, 別冊付録 (1993)

JUNET や BITNETJP, WIDE 等の国内の主要

な WAN と, 地域ネットワークの現状について 3 つの記事を集めている。

(29) 静谷啓樹; 川添良幸. BITNET の概要と日本の現状. *bit*, Vol.22, No.2, p.20-30 (1990)

BITNET の電子メール, 対話型利用, LISTSERV, そして BITNET II について説明している。尚, この号は学術研究者用ネットワークを特集しており, 他に WIDE, NSFNET 等を扱った 3 つの記事が載っている。

(30) 川添良幸; 早川美徳; 長谷川勝夫. BITNET II: TCP/IP による統合. *bit*, Vol.24, No.11, p.15-25 (1992)

BITNET II について VM および VAX/VMS 上でのその実現について東北大学の TAINS での例をもとに詳述している。

5 利用の手引

5.1 インターネット

(31) Krol, Ed. *The Whole Internet User's Guide & Catalog.* Sebastopol, CA, O'Reilly & Associates, 1992. (ISBN 1-56592-025-2)

刊行当時におけるインターネット利用に関する殆ど全ての情報が洩れなく収められている。語り口も明快で諸概念の説明も分かり易く, 図も多用されており初心者~中級者用のテキストとして相応しい。“guide”と“catalog”とに分かれているが, 後者が資源案内に相当する。付録も他所の資料を転載するのではなく良く考えて作られたオリジナリティのあるものとなっている。

(32) Smith, Richard J.; Gibbs, Mark. *Navigating the Internet.* Carmel, IN, Sams Publishing, 1993. (ISBN 0-67230-362-0)

ダイヤルアップ接続による利用者も念頭に置いて, 最も初歩的な事項から易しく説明している。随所に注意書きと画面の図が挿入され, インターネットの海を無事に航海できるように配慮されている。練習問題までであるので独習用テキストとして使うことができる。後半は主にメーリングリストを中心に各資源を紹介している。

(33) Fisher, Sharon. *Riding the Internet Highway.* Carmel, IN, New Riders Publishing, 1993. (ISBN 1-56205-192-X)

PC等からのダイヤルアップ接続による利用者を対象に書かれた入門書。一通りのことは書かれているが、それ以外にもMUDや.plan等にも触れているところが面白い。

(34) LaQuey, Tracy; Ryer, Jeanne C. *The Internet Companion: A Beginner's Guide to Global Networking*. Reading, MA, Addison-Wesley, 1993. (ISBN 0-201-62224-6)(日本語訳「Internet ビギナーズガイド」トッパン, 1993)

本の大きさ、レイアウト、構成、文章等のどれをとっても読み易く出来ている。又、随所に「こぼれ話」的コラムが挿入されており読者が退屈しないように工夫されている。これらの要因の他に米国の副大統領の序文も付いていたせいか、現在この出版社のコンピュータ関係の図書の中でトップセラーとなっている。第3章までのテキストはTracy LaQueyの肖像や当時は序文著者の肩書が上院議員となっていたことが判る本書の初刷の表紙写真と共にネットワーク上に公開されている。日本語の翻訳はNSFNETをNFSNETとする等の数多くの誤植があるので注意を要する。尚、最近本書に通信ソフトウェアWorldLinkを添付した“The Internet Companion Plus: A Beginner's Start-Up Kit for Global Networking”が出版された。

(35) Kehoe, Brendan P. *Zen and the Art of the Internet: A Beginner's Guide to the Internet*. 1st edition. 1992.

ネットワーク上で入手できる初の包括的手引書として、TeXによるその美しいフォーマットと共に発表当時大きな話題となった小冊子である。具体的なコマンド等の入力例を挙げながら、基本的な利用のあらましが非常に分かり易く説明されている。

(36) Kehoe, Brendan P. *Zen and the Art of the Internet: A Beginner's Guide*. 2nd edition. Englewood Cliffs, Prentice Hall, 1992. (ISBN 0-13-010778-6)

前記の第1版にtelnetで利用可能なデータベース、ftpで入手可能な資料のリスト、電子テキストプロジェクト等の項目を追加して商業出版されたもの。全体的には第1版との大きな違いは認められない。著者は現在第3版を執筆中であり、出版者との折り合いがつけば、この第2版をネットワーク上に提供する予定であると聞く。

(37) Gaffin, Adam. *Big Dummy's Guide to the Internet*. EFF, 1993.

上記Kehoeの文献に比べより一般の利用者を対象としたインターネットへの手引書。ASCIIテキスト版とApple LibraryのSteve Cislerによるハイパーカードのスタック版とがあるが、後者はフォントの関係で正しく表示されない部分がある。

(38) Gaffin, Adam; Heitkötter, Jörg. *Big Dummy's Guide to the Internet: A Round Trip through Global Networks, Life in Cyberspace, and Everything ...* Texinfo edition. 1.02. 1993.

上記文献をドイツのHeitkötterがTeXでフォーマットしたもの。付録として更にHoward RheingoldやBruce Sterlingらの文章や、参考文献目録等を加えた結果、オリジナルより分量が大幅に増えている。

(39) NCSA Education Group (Comp.) *An Incomplete Guide to the Internet and Other Telecommunications Opportunities Especially for Teachers and Students K-12*. 1993.

最初にMacintoshからのモデム接続による利用を例に様々なインターネットのアプリケーションの操作を解説し、後半ではインターネット上の諸々のプロジェクトや膨大な資源について詳細に説明している、書名に反してかなり包括的な資料である。特にVeronicaやJugheadについてのチュートリアルは、未だ他書にその例を見ない。

(40) Seibel, Michael. *Electronic Mail and Other National Network Services*. 1992.

各ネットワークの概説と諸々のサービスの利用法を要所を押さえて記述してある。印刷すると100ページ程の小冊子だが、ポイント数の大きな字や図を多用しており非常に読み易くレイアウトされている。各ページの下部には学習者がメモを書き込めるスペースが用意されており、教科書として使用するにも適している。

(41) Tennant, Roy; Ober, John; Lipow, Anne G. *Crossing the Internet Threshold: An Instructional Handbook*. Berkeley, CA, Library Solution Press, 1993. (ISBN 1-882208-01-3)

インターネット利用の学習書。自習用としても使えるが、教師用のハンドブックとしての使用を念頭に置いて作られている。演習問題と図表等のOHP用原稿とが添えられているので、直ぐにでも

教室で活用できる。尚、ルーズリーフ製本で開いたまま机の上に置けるようになっている。

(42) Jones, Paul. *What is the Internet?* 1992.

インターネット利用時の3大ツールである、電子メール、ftp、telnet についての具体的な利用法と、文献案内。

(43) Tennant, Roy. *Internet Basics*. 1992. (ERIC Digest EDO-IR-92-7)

インターネットの現況、3大ツール、資源についての概説と文献案内。

(44) Raish, Martin. *Network Knowledge for the Neophyte: Stuff You Need to Know to Navigate the Electronic Village*. Version 2.2. 1992.

諸ネットワークのプロトコル、ゲートウェイ、3大ツール、ネットワーク上の礼儀作法、文献案内。

(45) Hallman, Judy. *Exploring the Internet*. 1992.

ftp はもとより CWIS, OPAC, BBS, Gopher 等のインターネット利用の具体的な学習書である。生徒は指示通りに数字や文字キーを押下していくだけでよい。

(46) *Venturing into the Internet*. Office for Information Technology, University of North Carolina. 1992. (OIT Document G-064-1)

電子メール、ftp、telnet、OPAC、メーリングリスト、ネットワークニュース等の利用法についての簡単な説明書。

(47) Capon, I.N. *The Uses of Computer Networking*. 1991.

ネットワーク概説、メーリングリスト、ニュース、等の利用法、文献案内。但し、JNET を Japanese Network として挙げている奇妙な箇所がある。

(48) Balyoz, Paul. *Paul's Guide to Using the Internet*. 1990.

インターネットの3大ツールの他に、nslookup などのコマンドについて解説しているところが面白い。どうやら実際にはあの Scott Yanoff が執筆しているようである。

(49) Andres, Yvonne Marie. *CERF'n Safari: A Classroom User's Guide to the Internet*. 1st edition. 1992.

教室でインターネットを利用する場合の様々なヒントが、テキストエディタや finger コマンドの使用法から、諸々のオンラインサービス利用等に

互って述べられている。実際にはこの文書と共にパーソナルコンピュータ用の通信ソフトが配布され Safari kit として活用されるようになっている。

(50) *A Cruise of the Internet: Merit Network's Guide to Navigating the Internet*. Version 2.2. 1993.

美しいカラーグラフィックによるインターネットの手引である。Macintosh 用および Windows 用がある。Version 1 に Gopher, WAIS, Archie の解説部分を加えると同時に、画面構成等も大きく変更している。

(51) *The NNSC Tour of the Internet*. Version 1.4.2. 1991.

ハイパーカード版のインターネットの手引。現在では内容が多少古くなったことは否めないが、非常に良く考えられて設計された素晴らしいスタックである。尚、利用者が新たにローカル情報等を追加していくことも可能である。

(52) 山本和彦. ハッピーネットワーキング: これからインターネットを使い始める人達へ。 版. 1993.

インターネット利用の手引書として一冊のまとまった形でネットワーク上に提供された文献としては本邦初のものであろう。イラストや入力例の図を多用して大変分かり易い手引書となっている。しかしページ数の多くは Emacs や GNUS などのコマンド操作の説明に費やされているため、やや物足りない印象を受ける。 版との相違は、Archie や日米のインターネットの現状についての記述の追加と誤植の訂正が主である。

(53) 明治大学情報科学センター. Internet への手引き. 1992.

電子メール、telnet、ftp の3大ツールの使用例と利用時のマナーを説明した、ネットワーク上でも入手可能な7ページの資料。

(54) 吉村伸. インターネットの利用と仕組み, 1- UNIX Magazine, Vol.8, No.5- (1993)

日本におけるインターネットの歴史と現状や、電子メール、ニュース等のインターネットの各サービスを実際のデータを挙げながら非常に詳しく説明している、貴重な情報に溢れた連載記事。

5.2 BITNET

BITNET はインターネットとは別の独自の世界を築いているが、ゲートウェイ接続等により、インターネット利用者もその世界に触れる機会は多い。利用の手引等の文献資料は BITNET の主要ノードから多くのものがオンラインで請求でき、これらの無数の文書は例えば Christopher Condon の “*BITNET Userhelp*” や “*BITNET Servers*”, Eric Thomas の “*LISTSERV Memo*” 等のように BITNET の貴重な財産となっているが、それらの紹介は今回は割愛させて頂く。

(55) Moore, Michael A.; Sawey, Ronald M. *BITNET for VMS Users*. Burlington, MA, Digital Press, 1992. (ISBN 0-13928-797-3)

VAX/VMS 利用者を対象に書かれてはいるが、VM/CMS 利用者もコマンドを置き換えるだけでそのまま利用でき、インターネットからの利用者も一部を除き大いに参考にすることができる。ただ、日頃から BITNET を頻繁に直接利用している人にはやや物足りない印象を与えるであろう。ASTRA データベースや BITNET 上の数々のサーバに関するより詳細で包括的な記述が欲しいところである。

(56) Branch, Frank Lee. *Surfing “The Net”*: *How to use Internet Listservers as a Reference Tool, including an Annotated Bibliography*. 1993.

LISTSERV はメーリングリストの管理だけでなく、強力なデータベース機能をもったサーバである。これはその LISTSERV を参考調査のツールとして利用する場合の至極明快に書かれた手引書である。

(57) Leach, Michael R. *HULINTRO's Introduction to the Networks*. 1991.

LISTSERV のリストである HULINTRO に加入すると送られて来る案内書。LISTSERV の利用法が中心だが、主要ネットワークについての概説、用語説明等もある。

(58) Viehland, Dennis W. *A Resource Guide to Listservers, BITNET, Internet, and Usenet*. 1991.

LISTSERV によるメーリングリストの解説を中心に、その他のネットワーク情報の幾つかを説明している。

(59) 古野信之. BITNET の機能. 近畿大学九州工学部電算機センター広報, Vol.1, No.1, p.12-35 (1990)

電子メールや対話型コマンドおよびメッセージの利用法について紹介している。

(60) 大塚輝彌; 鎌田勉. BITNET のススメ, 1-2. 比較生理生化学, Vol.7, No.1, p.25-32; Vol.7, No.2, p.90-101 (1990)

電子メールを中心に BITNET の紹介と具体的利用法の説明をしている。第 1 部で注釈された日本国内の BITNET の正式名称はその後 BITNET.JP と決まり、第 2 部に書かれた日本語の取り扱いについても後に国内で調整が行なわれた。

5.3 UUCP ネットワーク

(61) Todino, Grace; Dougherty, Dale. *UUCP 入門*. 東京, アスキー, 1993. (ISBN 4-75610-280-8)

“*Using UUCP and Usenet*” の翻訳。原著に「日本のネットワーク組織」等の記事を追加している。

5.4 図書館員用手引

対象とされる読者を限定した資料を選ぶのはインターネットについて言えば余り意味がなく、逆に重要な情報を見落とす危険があるが、世の中にはそれを好む人と主に時間の関係でそうせざるを得ない人がいる。以下に挙げるのはそうした人たちのための手引書である。

(62) Engle, Mary E. et al. *Internet Connections: A Librarian's Guide to Dial-Up Access and Use*. Chicago, LITA, 1993. (LITA Monographs, 3) (ISBN 0-83897-677-8)

インターネット上の OPAC アクセス用のソフトウェアの解説と Ch. W. Bailey, Jr. の “*Library-Oriented Lists and Electronic Serials*” が載っている他は、強いて副題を Librarian's Guide とする理由はなかったように見受けられる。ダイヤルアップ接続による利用を前提とした図書であるためか、SLIP や PPP についての簡単な説明がある。

(63) Farley, Laine (Ed.) *Library Resources on the Internet: Strategies for Selection and Use*. Chicago, Reference and Adult Services Division,

Machine-Assisted Reference Section, Direct Patron Access to Computer-Based Reference Systems Committee, 1991. (RASD Occasional Papers, No. 12)

書籍のほうは既に絶版状態らしいが、同じ内容のテキストファイルがオンラインで入手できる。インターネット上のOPACやその他のデータベースを利用する際の数々の重要なヒントを懇切丁寧に説いている。又、Ernest Perezがハイパーテキスト化したPC用の版(LIBINET)もある。

(64) Miller, R. Bruce; Wolf, Milton T. (Eds.) *Thinking Robots, an Aware Internet, and Cyberpunk Librarians: The 1992 LITA President's Program: Presentations by Hans Moravec, Bruce Sterling, and David Brin*. Chicago, LITA, 1992. (LITA Presidents' Series)(ISBN 0-83897-625-5)

1992年に行なわれた上記招待者の講演とそれに関連した他の著者による論文を集めたもの。コンピュータ文化、ネットワーク文化と図書館員の未来像等の興味深い内容となっている。書籍の他に、ハイパーカードのスタック版がオンラインで入手できる。

(65) Noonan, Dana. *A Guide to Internet/BITNET: A Metro Library User Network Guide, Pt. 1*. 1992.

VAXからの電子メールの利用、図書館関係のメーリングリストへの参加法、図書館関係の電子雑誌の購読法、BBSの利用の仕方等について述べている。尚、第2部はインターネット上のOPACリストとなっている。アップデート情報は、MetronetのNet-Newsという不定期刊行物によってネットワーク上に提供される。又、Ernest Perezがハイパーテキスト化したPC用の版(HWGUIDE)もある。

(66) Ladner, Sharyn J.; Tillman, Hope N. *The Internet and Special Librarians: Use, Training and the Future*. Washington, DC, Special Libraries Association, 1993. (SLA Research Series, No. 10)(ISBN 0-87111-413-5)

研究図書館や企業内図書館に勤務する図書館員をはじめ、大学図書館で特定の分野の資料調査に携わっている図書館員らを対象として、これらの図書館員がどのようにインターネットおよびBITNETを利用しているかの調査結果とそれに基づくネッ

トワーク利用のための訓練についての著作。チュートリアル、メーリングリストのディレクター等の付録が全体の半分以上の分量を占めている。

(67) Ladner, Sharyn J.; Tillman, Hope N. *How Special Librarians Really Use the Internet: Summary of Findings and Implications for the Library of the Future*. 1992.

上記の同じ著者らの文献の基になった調査資料。ネットワーク利用経験の豊富な研究者と接しなければならぬ等、一般の図書館員に比べて特殊な環境にある図書館員が実際にどのようにインターネットやBITNETを利用しているのかについての調査報告である。

(68) Perez, Ernest (Comp.) *The Internet Explorer's Toolkit*. Version 1.1. 1992.

主として図書館員向けのインターネット上の情報や文書等を集めてハイパーテキスト化したPC用のソフトウェア。PC用通信ソフトウェアPSILinkが付いており、ダイヤルアップ接続によるインターネット利用も行なえるようになっている。

(69) 廣田とし子. インターネット: いま話題のネットワーク. 現代の図書館, Vol.31, No.2, p.75-81 (1993)

インターネットのサービスおよびその利用法を実例を挙げながら解説している。但し、ARPANETの接続当初の通信プロトコルとIPアドレスについての記述は誤りである。図書館にとってのインターネットの利用と、図書館の果たすべき役割についても触れている。

5.5 各ネットワーク別手引

(70) Bjork, Steven et al. (Eds.) *DDN New User Guide*. 2nd edition. DDN NIC. 1991.

米国の軍用ネットワークであるDefense Data Networkの利用の手引。特にMILNETの利用を中心に書かれている。登録者でないと使えないTACによる接続の具体例なども述べられているのが興味深い。

(71) McKelvey, K.A. (Ed.) *CERFnet User's Guide*. Revised edition. CERFnet. 1991.

米国の所謂ミッドレベルネットワークの一つであるCalifornia Education and Research Federation Networkの利用手引。FrEdMail (Free Edu-

ational Mail) Network の解説やトポロジー図なども載っているのが嬉しい。

(72) Heijne, Maria et al. (Eds.) *SURFnet Gids 1993*. SURFnet BV. c1992.

オランダの SURFnet はヨーロッパのネットワークの中では珍しく利用の手引を数年前から作成している。これまでは OS ごとに別になっていた手引をこの号から一つにまとめた。汎ヨーロッパネットワークの幾つかと他国のネットワークについての記述もあり、豊富な内容となっている。これはオランダ語版である。

(73) Heijne, Maria et al. (Eds.) *SURFnet Guide 1993*. SURFnet BV. c1992.

上記の手引の英語版。但し、印刷のレイアウトはオランダ語版に軍配が上がる。

(74) Goldstein, Cecil; Heard, Ron. *Getting the most out of AARNet*. 1991.

オーストラリアの学術ネットワーク AARNet の利用の手引。UNIX 版と VMS 版との 2 冊がある。DNS の説明や用語集なども付いており、ネットワークの一般的知識も得ることが出来る。

(75) Kochmer, Jonathan. *NorthWestNet User Services Internet Resource Guide (NUSIRG)* 3rd edition. 1992.

これも米国のミッドレベルネットワークの一つである NorthWestNet の利用手引である。資源案内から K-12 学年の利用についての章も含めた大著である。Internet Gopher 等についての記述を新しく追加した第 4 版 “*Internet Passport*” が米国では既に商業出版されたと聞く。

(76) Perry, Andrew (Comp.) *NYSERNet New User's Guide to Useful and Unique Resources on the Internet*. Version 2.2. 1992.

これも又、米国のミッドレベルの地域ネットワークの一つである New York State Education and Research Network の利用手引である。諸々のデータベースの利用案内、WAIS などのサービスの利用例も挙げた豊富な内容となっている。

(77) *The TENET !!!! Stack*. Version 1.0. 1993.

パーソナルコンピュータからのダイヤルアップ接続による利用を対象に作られた「パソコン通信ホスト」Texas Education Network 接続用ハイパーカードスタック。初級、中級、上級、に分かれ各々で

TENET ホストからインターネットを利用する場合の IRC, ftp, ニュース, メール等に関する簡単な知識を得ることができるようになっているので、そのままインターネット利用の手引としても使えないことはない。

(78) *Mailbase User's Guide*. The UK Networked Information Services Project, The Computing Service, University of Newcastle upon Tyne. 1993.

英国ニューキャッスル大学のプロジェクト NISP により始められた電子メールインタフェースによるサービス Mailbase の利用手引。別にオンライン利用の手引もある。

(79) JUNET 利用の手引作成委員会編. JUNET 利用の手引. 第 1 版. 1988.

日本の最も歴史ある学術ネットワークの一つである JUNET の利用手引。初心者、一般、管理者のための各章があり、各々で電子メールとニュースの利用或いは管理について述べる、という構成をとっている。

(80) JUNET 利用の手引作成委員会編. JUNET 利用の手引. 第 2 版暫定版. 1992.

第 1 版の章構成を変えずに、旧稿と同じ部分は残しつつも更新や新たな事項の追加等を行なった結果、改稿中の部分がありながら分量的には第 1 版をかなり上回る膨大な手引書となっている。但し、JUNET 参加組織の中でも IP 接続を行なうサイトが増えつつある今日、当手引書の再構成による改訂が強く望まれている。

(81) 岡崎功. 初心者向け JUNET 利用の手引き. 1992.

JUNET についての簡単な説明とメールおよびニュースを利用する上での注意事項を分かり易く述べた非常に短い手引書。主に上記第 1 版と第 2 版暫定版を参考にしている。

6 資源案内

6.1 資源全般

(82) NSF Network Service Center (Comp.) *The Internet Resource Guide*. 1993.

NNSC によるオフィシャルな資源案内。全 7 章から成り、各章内の節単位に更新が行なわれる。更

新時にそれを知らせてくれるサービスもある。膨大な資料ではあるが、それでもインターネットの資源のごく一部しかカバーし得ていない。

(83) Huston, Geoff. *AARNet & Kawaihiko Network Resource Guide*. 1992.

AARNetの資源案内。フォーマットは上記のIRGに準じている。尚、*Kawaihiko*とはマオリ族の言葉で「稲妻」という意味らしい。

(84) Holbrook, J. Paul; Pruess, Christine S. (Eds.) *CICNet Resource Guide*. 1992.

米国のミッドレベル地域ネットワークの一つである Committee on Institutional Cooperation Networkの資源案内。CICNetのメンバーサイトの図書館のOPAC約20について各々詳細な解説を行っている他、インターネットの有用な資源約40についても丁寧に説明している。

(85) SURAnet NIC. *SURAnet Guide to Selected Internet Resources*. 1993.

米国の Southeastern Universities Research Association Networkによるインターネットの資源案内。重要な文献の紹介の他、各学問分野の資源の数々を詳細に説明している。年に数回更新されるので信頼性に定評がある。最近、以前の“*Information Available on the Internet*”というタイトルが変更された。

(86) Foster, Jill (Ed.) *User Support and Information Services in Europe: A Status Report* 2nd edition. 1993. (RARE Technical Report, 1)

ヨーロッパ各国のネットワーク計25と地域ネットワークとしてのNORDUnet, 汎ヨーロッパネットワークとしてのCERN, EARN, EUnet, RIPEについて各々の連絡窓口, 利用者対応, サービス, OPAC, アーカイブ等の資源について記述している。付録としてMailbase, CONCISE, RARE Document Centreの利用案内が載っている。

(87) Koren, Judy. *Judy Koren's Internet Resource Guide*. 1993.

第1部ではインターネットのディレクトリ, 手引書等の入手法を, 第2~3部では人文・社会科学, 自然科学に関するインターネット上の諸々の資源の利用案内を載せている有用な資料である。

(88) Martin, J. *There's Gold in them thar Networks! or, Searching for Treasure in all the Wrong Places*. 1993. (RFC1402)(FYI10)

インターネット上のOPACやアーカイブ, 二次資料, CWIS, BBS, NIC, の利用方法, 市販のネットワーク関係の書籍や雑誌の目録等を記している。1991刊行のRFC1290を改訂したもの。

(89) *NORDUnet User Information Available in FUNET, UNINETT and SUNET*. 1991.

これはNORDUnet User Resource Guideのための予稿であり, SUNETのページに関してはNNSCのIRGの記述フォーマットに準じていることからそのことが窺えるのであるが, 未だに公式の資源案内は日の目を見ないようだ。

(90) Polly, Jean Armour. *Surfing the Internet: an Introduction*. Version 2.0. 1992.

著者が一人称で語るインターネットの資源案内。幅広くサービスを紹介しているが参考資料として使うには読み易くフォーマットされていない。

(91) Scott, Peter. *Hytelnet*. Version 6.6. 1993.

PCから世界中のOPACやCWISその他の資源をtelnetを使って利用するときの補助ツール。言うなればtelnet接続可能なサイトの, ハイパーテキスト的構造をもったデータベースである。PCの主メモリに常駐して随時呼び出すことができる。DOS版の他に, Macintosh, VAX/VMS, UNIXの各版があり, インターネット上にはHytelnetサーバとなっているホストもある。

(92) Buckman, John. *The Desktop Internet Reference*. 1993.

これもHytelnetに似た, メモリ常駐型のハイパーテキスト的データベースである。接続先データだけでなく, 数々の手引となる文書ファイルをも含んでいるため全体で20MB近い大きさになっている。現在のところDOS版およびWindows版がある。

(93) Grotophost, Clyde W. *InfoPop*. Version 2.4. 1992.

これも前二者と同様のハイパーテキスト構造をもった参考ツールである。但し, データ量は少なく(約500KB), コンパクトな仕上がりになっている。DOS版及びWindows版がある。

(94) Thibault, J.-Robert. *The Internet Archivist*. Version 4.1. 1993.

USENETのFAQを特集したニュースやOPACのリスト, 様々な資源案内等50以上のインターネット上の貴重文書をストックしたハイパーカードの

スタック。利用者は更にネットワーク上で収集した文書を追加登録していくことが可能である。

(95) 武藤佳恭. インターネットの遊び方. *bit*, Vol.24, No.10- (1992-)

インターネットの諸サービスの内容を主に実際の利用時の画面を用いて説明している。連載第1回めの、ソ連公文書のLCによる公開が日本では報道されていなかった、という部分は嘘である。

6.2 特定の科学, 学問別

(96) Strangelove, Michael. *The Electric Mystic's Guide to the Internet: A Complete Bibliography of Networked Electronic Documents, Online Conferences, Serials, Software and Archives Relevant to Religious Studies*. Version 1.1. Vol. 1 & 3. 1992.

宗教学関係のメーリングリスト, ニュースグループ, オンライン配布資料などを詳細に紹介した全3巻の案内書。西洋古典学, 古代史などの関連分野にとっても有用な資料である。現時点では, オンライン文書のアーカイブについて記述される予定の第2巻が未刊となっている。

(97) Ciolek, T. Matthew. *Internet Voyager: Social Scientist's Guidebook to AAR-Net/Internet Online Information Services*. 1992.

社会科学の研究者に有用な文書やソフトウェアのアーカイブ, BBS, データベース, 電子逐次刊行物, 等の紹介。

(98) Hancock, Lee. *Internet/BITNET Health Sciences Resources*. 1993.

医学, 衛生学研究者に有用なメーリングリスト, データベース, その他の紹介。

(99) Drew, Wilfred. *Not Just Cows: A Guide to Internet/BITNET Resources in Agriculture and Related Sciences*. 1992.

農学研究者に有用な資源の案内。農学分野の蔵書の多い図書館のリストや地理情報サービス, FEDIX等についても挙げてある。

(100) Smith, Una. *A Biologist's Guide to Internet Resources*. Version 1.5. 1993.

生物学の研究者向けのメーリングリスト, ニュースグループやデータベース等の資源を挙げている。Veronica 等のツールの使い方も説明している。

(101) Maine Law and Technology Association, University of Maine School of Law. *The Legal List*. Version Beta 4. 1992.

法学の研究や教育に携わる人向けのBBSやメーリングリスト, ニュースグループ等の紹介。

(102) Goffe, Bill. *Resources for Economists on the Internet*. 1993.

経済学関係のBBSやGopher, その他の資源案内。

6.3 ネットワーク, ホスト情報

以下に挙げたものの他に例えば, DDNのNICでは世界中のホストやネットワーク表が, JPNICでは日本国内のドメイン名リストが, 随時更新されつつ提供されている。

(103) LaQuey, Tracy L. (Ed.) *The User's Directory of Computer Networks*. Bedford, MA, Digital Press, 1990. (ISBN 1-55558-047-5)

BITNETやSPANの各ホストとNSFNETサイトの情報リスト, ネットワークナンバーによるリスト, ドメイン名によるリスト, 組織名によるリスト等の他に世界の主要ネットワークの説明が載っている。現在ではデータ内容が古くなったが電話帳のように有用で便利な資料であった。

(104) LaQuey, Tracy L. (Ed.) *Users' Directory of Computer Networks*. Austin, TX, Office of Telecommunication Services, University of Texas System, 1988.

上記のディレクトリの前身となったもの。書籍の形では現在入手不可能だが, 文書ファイルとしてオンラインで公開されている。

(105) Frey, Donnalyn; Adams, Rick. *!%@:: A Directory of Electronic Mail Addressing and Networks*. 1st edition. Sebastopol, CA, O'Reilly & Associates, 1989. (ISBN 0-93717-539-0)

世界の各ネットワークを左ページにその名称やサービス, 連絡先, 右ページにマップが配置された見開き2ページで紹介した大変便利なディレクトリ。この第1版はルーズリーフ綴じ等の製本面でも工夫されており机上に広げて参照するのに都合が良く出来ていた。

(106) Frey, Donnalyn; Adams, Rick. *!%@:: A Directory of Electronic Mail Addressing and*

Networks. 3rd edition. Sebastopol, CA, O'Reilly & Associates, 1993. (ISBN 1-56592-031-7)

僅かな更新を行なった第2版から2年を経て、構成やスタイルの大きな変更を行なって出版された。収録ネットワーク数が約2倍近くになり、マップが削られた一方、世界各国のサブドメイン名称のリストが付加された。著者は今後の頻繁な更新に素早く対応していくという。

6.4 メーリングリスト, 電子ジャーナル

以下に挙げたものの他に、USENETに限れば news.announce.newusers 等で公開されるメーリングリストのリストがあり、BITNETに限れば LIST GLOBAL コマンドで転送される LISTSERV のリストがある。

(107) Hardie, Edward T.L.; Neou, Vivian (Eds.) *Internet: Mailing Lists*. 1993 edition. Englewood Cliffs, NJ, Prentice Hall, 1993. (ISBN 0-13327-941-3)

SRI の “List of Lists” を書籍として刊行したものの。約 800 のインターネットおよび BITNET 上のメーリングリストを比較的詳しく説明している。但し、配列はオンライン版と同じく各リスト名称のアルファベット順である。

(108) Kovacs, Diane K. (Ed.) *Directory of Scholarly Electronic Conferences*. 1993.

インターネットおよび BITNET 上の 800 以上のメーリングリストやニュースグループを学問の分野別に分類し、各々の内容の説明を行なっている。最近では年 1 回程度の割合で更新されている。

(109) Avery, David et al. *Electronic Mailing Lists for Special Interest Groups (Dartmouth List of Lists)* 1993.

約 2300 以上にも及ぶインターネットおよび BITNET 上のメーリングリストのリスト。各フィールドがタブ記号で区切られたデータの膨大な塊である。更新は月 1 回程度。ダートマス大学ではこのデータ検索用のアプリケーションも提供している。現在、DOS, Macintosh, VAX/VMS, VM/CMS, UNIX 用に各アプリケーションがあり、特に Macintosh 用には LISTSERV のチュートリアル・スタックも付属している。

(110) Bailey, Charles W., Jr. *Library-Oriented Lists and Electronic Serials*. 1993.

インターネットおよび BITNET 上の 130 以上にも図書館関係のメーリングリストや同じく 20 以上の電子ジャーナルやニュースレターのリスト。月 1 回程度の割合で更新されている。

(111) Strangelove, Michael. *Directory of Electronic Journal and Newsletters*. Edition 2.1. 1992. (ISSN 1057-1337)

学術関係のニュースレター等の電子逐次刊行物のリスト。ネットワーク上で提供されているが、前述の Kovacs のリストと共に印刷物としても ARL から入手することができる。

6.5 BBS およびニュースグループ

(112) *User's Guide for Public Access to the Federal Bulletin Board*. Office of Electronic Information Dissemination Services, U.S. Government Printing Office. 1992.

米国政府出資の BBS サービスの利用の手引。

(113) Kreeger, Thomas A. *Zamfield's Wonderfully Incomplete, Complete Internet BBS List*. 1992.

インターネット上の各 BBS 名、ドメイン名、IP アドレス、内容等を紹介したリスト。

(114) Spafford, Gene et al. *List of Active News Groups*. 1993.

USENET 上の活動状態にあるニュースグループの一覧で、news.announce.newusers 等に定期的に投稿されている。

6.6 OPAC, データベース

(115) St. George, Art; Larsen, Ron. *Internet-Accessible Library Catalogs & Databases*. 1992.

数あるインターネットの OPAC リストの中でも最も早期に作成されたものである。世界の各 OPAC の使用法のみならずその他の様々な情報も収めてある。ただ、1992 年の夏以降更新が行なわれていないようである。

(116) Barron, Billy; Mahe, Marie-Christine. *Accessing On-Line Bibliographic Databases*. 1993.

上記の St. George のリストと双壁をなす包括的な OPAC リストである。各 OPAC 毎に接続法のみを簡潔に記し、OPAC システムによって異なる検索方法については別個にまとめて説明している。1993 年の夏に改訂されるまでは、タイトル冒頭に “UNT’s” が付いていたが、Barron の職場異動により削除された。又、PostScript と WordPerfect 版は廃止され、Gopher リンクから Perl プログラムにより生成された ASCII ファイルのみの提供となった。TOC や索引も同時に廃止されたが、Gopher から WAIS インデクスで検索は可能なので、今度の改訂は筋が一本通っている。

(117) Noonan, Dana. *A Guide to Internet/BITNET: A Metro Library User Network Guide, Pt. 2.* 1992.

世界の各 OPAC を 5 ~ 6 行で簡潔に記述している。第 1 部は図書館員のためのインターネットの利用の手引となっている。

(118) Dowling, Thomas (Ed.) *University of Washington Libraries Internet Notebook.* 1992.

簡潔で読み易い世界の OPAC リスト。CARL, DOBIS, Melvyl, Geac, Notis 等のシステム別の図書館一覧表や、MS-DOS と UNIX とのコマンド対照表が付いている。

(119) Sadler, Joh. *Canadian Internet Accessible Libraries.* 1991.

カナダ国内の 21 の OPAC リスト。非常に短いが取り扱い易い。

(120) Barry, Antony B.; Stanton, Deidre E. *Australian and New Zealand Telnet Accessible Library Services.* 1992.

これは前述の AARNet の資源案内から、図書館サービスの部分だけを抽出し、再構成したものである。

(121) University of Sussex Library (Comp.) *JANET-OPACS: OPACS in the UK: A List of Interactive Library Catalogues on JANET.* 1992.

JANET で接続可能な英国内の OPAC 約 70 のリスト。各図書館のサービス時間帯、蔵書数、OPAC によるカヴァー率、使用システム等詳細な記述をしてある。

(122) Duggan, Richard H. *CATALIST: A Hypertext Internet Library List for Windows.* Version 1.0. 1991.

これは “UNT’s Accessing On-Line Bibliographic Databases” を Windows 用に移植したものである。アルファベット順に並べた大学名或いは国名のどちらからでも検索できる。ハイパーテキストエンジンとなっている TookBook のランタイム版が付属する。

6.7 リファレンスカード

ある程度インターネットの資源利用の経験を積むと、諸々のサービスの内容よりもサービス毎の接続先を簡単に知るための「住所録」のような手頃で読み易いリストが欲しくなるものである。数多くあるこの種のリファレンスカードの中から有名なものを以下に挙げる。

(123) Yanoff, Scott (Comp.) *Special Internet Connections.* 1993.

多くの利用者から好評を博し、諸々の著作中でも採り上げられることの多い非常に便利なリストである。公開後 2 年を経て分量は当初の 5 倍になっている。最近は月 1 回の割合で更新されるようである。

(124) December, John (Comp.) *Information Sources: the Internet and Computer-Mediated Communication.* Release 1.6. 1992.

これも非常に読み易く工夫してレイアウトされたリストである。諸サービスの他、文献やネットワーク関連団体のリストも収めてある。

(125) Smith, Jeremy. *Big Fun in the Internet with Uncle Bert.* 1993.

電子辞書、統計情報等の一般参考情報から White Pages, Archie 等のネットワーク参照情報、freenet や nixpub 情報まで幅広く扱っている読み易いリスト。

(126) DeSimone, David. *Services Available via Standard E-Mail.* 1991.

telnet や ftp が使える環境にない人達のための、電子メールに対応した諸サービスの紹介。

(127) Savetz, Kevin. *The Internet Services Frequently Asked Questions and Answers.* Version 1.4. 1993.

インターネットのサービスに関する初心者への質問とそれに対する回答のリスト。USENET の news.answers などに投稿される。

6.8 ダイアルアップ接続, その他

(128) Nixpub: *Open Access UNIX (*NIX) Sites*. 1993.

USENET の comp.misc 等に投稿される, 主として BBS サービスなどを提供する公衆電話回線からのダイアルアップ接続が可能な UNIX ホスト約 150 のリスト。簡易記述版と詳細記述版とがある。

(129) Kaminski, Peter. *Public Dialup Internet Access List (PDIAL)*. 1993.

ダイアルアップ接続によるインターネット利用を提供する世界中の業者や商用或いは非商用システム約 50 のリスト。

(130) Milles, James (Comp.) *Individual Access to Internet*. 1992.

Nixpub および PDIAL に SRI のインターネット接続業者リスト, NNSC の同リストを加えて編集した 4 部からなるリスト。

(131) Granrose, Jon. *List of All Known anonymous FTP Sites, with A General Description of Archive Topics for Each*. 1991.

インターネット上の anonymous FTP サイトのリスト。1991 年秋をもってリストの更新を停止した。

7 インターネット上のアプリケーション, ツールおよびシステム

7.1 電子メール

(132) Rose, Marshall T. *The Internet Message: Closing the Book with Electronic Mail*. Englewood Cliffs, NJ, Prentice-Hall, 1993. (ISBN 0-13092-941-7)

電子メールについての技術的解説書。RFC822 で定義されたフォーマットのみでなく MIME などのマルチメディア規格についての説明も行なっている。

(133) Allocchio, Claudio. *Electronic Mail: Introduction & Small User Guide*. 1993.

多様な規格が使用されているヨーロッパの現状を反映して, RFC822, X.400, Mail-11, UUCP の相互間のフォーマット変換を中心に解説している。

(134) Chew, John J. *Inter-Network Mail Guide*. Revision 1.37. 1992.

異なるネットワーク間でメールを交換する場合のアドレス指定の仕方等を易しく解説している。

(135) Lamb, David Alex. (Comp.) *College Email Addresses*. Version 3.32. 1993.

以前は Mark Kantrowitz によって編集されていた, 学生の名前から電子メールのアドレスを見出すための様々なテクニックやヒント集。USENET の news.answers 等に定期的に投稿される。

(136) 榎本龍夫; 小野祐一編著. データ通信ネットワーク: CCITT X シリーズ勧告解説. 東京, CQ 出版, 1990. (ISBN 4-7898-3512-X)

CCITT の 1988 年版勧告をもとに編集された X シリーズの勧告解説。X.400 および X.500 についても触れている。

7.2 CWIS

(137) Hallman, Judy. *Campus-Wide Information Systems*. 1992.

これは CWIS について, その目的, メリット, 使用システムソフトウェア, 管理運営, 将来の在り方等を説明した主要文献の一つである。

(138) Hallman, Judy. *CWIS List*. 1992.

CWIS を提供している組織のリスト。接続法, ハードウェアとソフトウェアに関する情報, 連絡先, 各々の提供情報の内容等を知ることができる。

7.3 広域情報検索ツール

7.3.1 全般

(139) EARN Association. *Guide to Network Resource Tools*. 1993.

ナビゲーションツールとしての Gopher, World-Wide Web, データベース検索ツールとしての WAIS, ASTRA, その他 Archie, WHOIS, NETSERV, TRICKLE, BITFTP, NetNews, LISTSERV 等のインターネットおよび BITNET 上の有用なアプリケーションの使い方を明快に説明した優れた本。

(140) Danzig, Peter B.; Obraczka, Katia; Li, Shih-Hao. *Internet resource discovery services*. 1992.

WAIS, Gopher, World-Wide Web, Archie, Indie その他の資源探索ツールの各々の概要と比較対照、問題点等を挙げている。

(141) Neuman, B. Clifford. *The Prospero file system user's manual*. 1991.

仮想ファイルシステム Prospero の導入および利用マニュアル。

(142) Deutsch, Peter. *Resource discovery in an internet environment*. 1992.

DNS, NFS から始まって WHOIS, X.500 などの White Pages サービス, WAIS, Gopher, World-Wide Web 等のツールを概観した上で、理想的な資源探索の構造を探る。

(143) Schwartz, Michael F.; Tsirigotis, Panagiotis G. *Experience with a semantically cognizant internet White Pages directory tool*. 1990.

WHOIS, X.500, KIS (Knowbot Information Service) 等の所謂 White Pages ツールを実際に利用する際の適切な環境や条件について研究した論文。

7.3.2 Gopher

(144) Anklesaria, Farhad et al. *The internet Gopher protocol: a distributed document search and retrieval protocol*. 1993. (RFC1436) Gopher プロトコルの基本的文献。

(145) Anklesaria, Farhad et al. *Gopher+: upward compatible enhancements to the internet Gopher protocol*. 1993.

Gopher に対して上位互換性をもった Gopher+ プロトコルの解説書。

(146) Lindner, Paul (Ed.) *Internet Gopher User's Guide*. 1993.

Gopher 開発元であるミネソタ大学による利用の手引。TurboGopher の画面等を挟みながら易しく説明している。FAQ とその回答も付いている。

(147) O'Henly, Michael. *An internet Gopher for the University of Victoria*. 1992.

ヴィクトリア大学での導入の様子をもとに Gopher が如何に CWIS のような情報提供システムとして有効であるかを説いた報告書。

7.3.3 WAIS

(148) Stein, Richard Marlon. Browsing through terabytes: Wide-Area Information Servers open a new frontier in personal and corporate information service. *BYTE*, May 1991 p.157-164 (1991)

WAIS がどのようなシステムであるのかを概説した記事。Z39.50 規格の拡張点にも触れており、要所は押さえてある。

(149) 次世代情報流通システムの姿: テラバイト規模のデータベースを高速アクセス. 日経バイト, 1991.11, p.320-331 (1991)

上記 Stein の記事の翻訳。日本語で紹介された WAIS 関係の文献としては最も早期のものの一つであるが、誤訳箇所が散見される。

(150) Landy, Alice; Davis, Franklin. *WAISStation: a user interface for Wide Area Information Servers: user guide*. 1991.

Macintosh 用の WAIS クライアントである WAISStation の利用手引。尚、WAISStation については Apple Library の Steve Cisler が MediaTrack を用いて作成したデモンストレーションが存在する。

(151) Kahle, Brewster. *Wide Area Information Server concepts*. 1989.

開発者の一人による WAIS システムの概念や設計思想を述べた論文。

(152) Kahle, Brewster; Medlar, Art. *An information system for corporate users: Wide Area Information Servers*. 1991.

Peat Marwick 社で導入した実例をもとに WAIS の企業内利用の有効性を説明する。

(153) Marshall, Peter. *WAIS: the Wide Area Information Server, or, Anonymous What???* 1992.

西オンタリオ大学での WAIS の導入例を具体的に述べ、一般の利用者にとっても使い易いシステムであることを解説した報告書。

(154) 山口英. インターネットでの情報共有: WAIS, 1-2. *UNIX Magazine*, Vol.8, No.5-6 (1993)

xwais による WAIS の利用法から WAIS サーバのインストールの仕方までを述べているが、ワークステーション利用者でなくとも貴重な記事。

(155) *WAIS Bibliography*. WAIS Inc., 1993.

元来 Brewster Kahle の元の職場である Thinking Machine 社で編集されてきた WAIS に関する包括的な書誌目録であったが、Brewster Kahle 等による WAIS 社設立により WAIS 社の著作となった。Z39.50 の仕様書やビデオテープによる映像資料までも挙げてある。

7.3.4 World-Wide Web

(156) Berners-Lee, Tim et al. *World-Wide Web: the information universe*. 1992.

World-Wide Web の世界への導入論文。Vannevar Bush や Theodor Nelson らが夢見た世界規模のハイパーテキストシステムが今や実現したと説く。

(157) Berners-Lee, Tim et al. *World-Wide Web: an information infrastructure for high-energy physics*. 1992.

World-Wide Web のやや技術的な解説書。高エネルギー物理学研究における資料調査のような特に高速性を要する作業に向けた検索システムであることを説く。

(158) Berners-Lee, Tim et al. *The WWW Book*. 1992.

World-Wide Web の技術的詳細を記述した資料。ハイパーテキストによる原稿を LaTeX フォーマットに変換したものである。

(159) Berners-Lee, Tim; Groff, Jean-François; Cailliau, Robert. *Universal Document Identifiers on the network*. 1992.

World-Wide Web 等で参照される、ネットワーク上の情報の所在場所や名称等の記述フォーマットに関する資料。即ち現在の URL である。

(160) Berners-Lee, Tim. *Uniform Resource Locators*. 1993.

URL の仕様書。現在はインターネット・ドラフトの段階だが、将来 RFC 文書の一つとして登録される予定である。

(161) Berners-Lee, Tim; Connolly, Daniel. *Hypertext Markup Language: a representation of textual information and metainformation for retrieval and interchange*. 1993.

World-Wide Web 上の、SGML をベースにした文書規格 HTML の仕様書。

(162) Berners-Lee, Tim. *Hypertext Transfer Protocol: a stateless search, retrieve and manipulation protocol*. 1993.

World-Wide Web で使用されるハイパーテキスト文書の通信セッション時のプロトコル HTTP の仕様。

(163) Berners-Lee, Tim et al. *World-Wide Web server software*. 1993.

様々な World-Wide Web サーバのシステム管理者向け利用の手引。“*The WWW Book*”と同様に HTML 文書から LaTeX 文書に変換された。

(164) Andreessen, Marc. *Getting started with NCSA Mosaic*. 1993.

World-Wide Web 用のハイパーメディアインタフェースによるブラウザ Mosaic の概説書。

(165) Andreessen, Marc. *NCSA Mosaic technical summary*. 1993.

上記入門書に対応する技術的資料。

8 コンピュータセンタ利用の手引

計算機センタの利用の手引の中には、インターネットを含むネットワーク利用について詳しく説明しているものもある。

(166) St. Sauver, Joseph E. *The VAX Book*. Release 1. 1990.

オレゴン大学の主ホスト機 VAX の利用の手引。300 ページを越す大著である。VMS 上でのニュースや電子メールの利用から、インターネット上の様々な情報資源へのアクセスの仕方まで解説している。特にインターネット上の OPAC の情報を多数挙げている。

(167) *Programmer's Handbook*. Mississippi State University. Release 1.0. 1992.

ミシシッピ大学の Sun SPARK サーバの利用手引。プログラム作成時のエディタ利用の仕方等の他に、BITNET などのネットワーク利用についても詳しく説明している。CWIS や OPAC の利用法やネットワーク用語の解説も付く。

(168) 東京理科大学情報処理センター利用の手引。神楽坂校舎編。1993.

BITNETJP のルートとなっているノードがここにある。全体的にハンディな造りの読み易い小冊子である。BITNET の利用については 35 ページを費やしている。

(169) TMUNER: 東京都立大学教育研究用情報処理システム利用の手引, 1-4. 1993.

1. 案内編, 2. ネットワーク編, 3. IBM 編, 4. VAX 編からなる 4 分冊の大部な手引書。ネットワーク編では, Macintosh や PC98 などを LAN に接続する具体的な手引と telnet や ftp 利用時の諸々の注意事項などが書かれている。IBM 編では 20 ページ以上に亘って BITNET の利用方法が述べられている。

9 ネットワーク管理, 技術

ネットワーク管理や技術に関する書籍は日本でも数多く出版されているのでここではオンラインで入手できるものを中心に挙げる。

(170) Malkin, G.S.; Marine, A.N.; Reynolds, J.K. *FYI on Questions and Answers: Answers to Commonly Asked "Experienced Internet User" Questions*. 1991. (RFC1207)(FYI7)

RFC1325 と対をなす, ネットワーク管理者向けの問答集である。ネットワーク管理者が直面する様々な問題や疑問に判り易く答えている。

(171) 西田竹志. *TCP/IP インターネットワーキング: LAN 間接続*. 東京, ソフト・リサーチ・センター, 1993. (ISBN 4-91577-823-1)

ルーティングやブリッジ処理を中心に漫画を挟みながら解説した判り易い本。インターネットについても, その現状や接続の検討, 準備の仕方等について触れている。

(172) O'Reilly, Tim; Todino, Grace. *UUCP システム管理*. 東京, アスキー, 1991. (ISBN 4-75610-087-2)

“Managing UUCP and Usenet” の翻訳。原著に「日本の UUCP ネットワーク」等の記事を追加している。

(173) Kirch, Olaf. *The Linux Network Administrators' Guide*. 1993.

近年話題の UNIX クローン OS である Linux 用のネットワーク管理の手引。

(174) 加藤朗編. *インターネット運用メモ*. 1991 年 11 月 17 日版.

WIDE インターネットの運用に関する技術的な情報や事例, ヒント等を編集したもの。

(175) 松永賢次. *慶義塾大学理工学部におけるネットワーク管理者ガイド*. 第 1.07 版. 1991.

アドレス管理, gated, named, 電子メール, ニュース等に関する管理者用手引。

(176) 吉田実. *工学部 LAN 接続の手引*. 第 1.2 版. 1992.

東京大学の工学部 LAN への接続のための, 初級管理者向けの手引。LAN と IP の基本的知識から説明していく。

10 ネットワーク利用時の倫理

(177) Shapiro, Norman Z.; Anderson, Robert H. *Toward an Ethics and Etiquette for Electronic Mail*. Santa Monica, Rand Corporation, 1985. (R-3283-NSF/RC)

電子メール利用時のフレーミングを中心にエチケットの必要性を論じたもの。1980 年代前半のメールが例として挙げられている。

(178) Rinaldi, Arlene H. *The Net User Guidelines and Netiquette*. 1992.

電子メール, telnet, ftp 利用時の倫理的注意事項を挙げる。最後にガイドラインとしてマナーの 10 か条を制定している。

(179) Templeton, Brad. *Dear Emily Postnews*. 1991.

Emily Postnews 嬢がネットワーク上での相応しい振舞いについて質問に答えていく, という反語的精神によって書かれたメッセージ。USENET の news.answers 等に定期的に投稿されている。

(180) CNI. *Information Policies: A Compilation of Position Statements, Principles, Statutes, and Other Pertinent Statements*. Washington, DC, Coalition for Networked Information, 1991. (ISBN 0-91800-621-X)

ALA, CAS, EFF, ISOC, NFSNET, OCLC 等の団体の情報やネットワークに関するポリシーを集めたもの。米国の図書館界の新しい組織であるネットワーク情報連合の出版である。後半は米国

の著作権法や情報アクセスに係わる法律を載せてある。

10.1 Internet Worms

1988年11月の初めに ARPA Internet に吹き荒れた Worm 騒動についての文献は非常に多いが、ここではその中から二つを挙げるに留める。

(181) Reynolds, J. *The Helminthiasis of the Internet*. 1989. (RFC1135)

事件から1年後に書かれた RFC 文書。事の顛末を振り返った後、事件以後に発表された文献の中から代表的な4件を選んで解説している。又、最後に多くの参考文献を載せている。

(182) Eichin, Mark W.; Rochlis, Jon A. *With microscope and tweezers: an analysis of the Internet virus of November 1988*. 1989.

上記の RFC の中で触れられていた4件の中の一つがこの論文である。特に問題のプログラムに焦点を当てて分析を加えている。その結果著者等はこのプログラムを指すのに worm ではなく virus という言葉を用いている。

11 NREN

米国インターネットの将来の姿として呈示されている NREN については研究教育界のみならず、図書館界、産業界からもその動向を見守る熱い視線が感じられる。出版された文献は以下の他にも無数にある。

(183) McClure, Charles R. et al. *The National Research and Education Network (NREN): Research and Policy Perspectives*. Norwood, NJ, Ablex Publishing Corp., 1991. (ISBN 0-89391-813-X)

NREN に関する記事や報告、法案等の一切を寄せ集めた大部な資料集。索引と用語解説が付いている。

(184) 牛崎進. 米国研究教育ネットワーク (NREN) の動向. *Library & Information Science News (LISN)*, No.68, p.9-12. (1991)

NREN 構想の経過、当面の課題、図書館界の対応等を分かり易く説明している。

12 その他

(185) Malamud, Carl. *Exploring the Internet: A Technical Travelogue*. Englewood Cliffs, NJ, Prentice Hall, 1993. (ISBN 0-13296-898-3)

著者が世界中を巡りながらインターネット上の著名人を実際に訪ね歩くという現実の旅行記である。日本を含めたアジアやヨーロッパのネットワーク状況も垣間見ることができる貴重な資料でもある。Dennis Jennings や Brewster Khale 等の肖像写真もあり、非常に興味深い。尚、雑誌“bit”で約1年に亙り「インターネット見て歩き」という邦題で抄訳が掲載されていた。

13 おわりに

インターネット関連の文献資料の目録を編むことはコンピュータネットワークに関心のある多くの図書館職員にとって魅力的な仕事の一つであろうが、初めに述べたようにそれらの大部分を占める、ネットワーク上に遍在する電子メディアによる資料の取り扱いという大きな問題が未決のまま存在しているので、決してやり易い作業ではないと思われる。案外その種の目録はネットワーク上でオンライン利用されているブラウジングツール等によってそのまま代用されるか、或いは検索結果集合の僅かな編集作業によって実現されるのが相応しいのかもしれない。近年のインターネットに於ける広域情報検索ツールの発展ぶりはそのことを十分に予感させている。もしかすると、本稿が発表される頃にはそうした事例が既に周知のものとなっているのではないだろうか。